

2009年3月12日

早稲田大学アジア研究機構
株式会社損害保険ジャパン

アジアの人材育成を目指し寄附講座開設

—テーマは「持続可能な発展とリスクマネジメント」—

学校法人早稲田大学（以下「早稲田大学」、総長：白井 克彦）と株式会社損害保険ジャパン（以下「損保ジャパン」、社長：佐藤 正敏）は、アジアの平和的成長と発展を担う人材育成を目的として、2009年4月から、早稲田大学アジア研究機構（以下「OAS」、機構長：奥島 孝康）に寄附講座を開設します。寄附講座のテーマは「持続可能な発展とリスクマネジメント」で、OASが一企業と産学連携を行うのは今回が初めてです。

1. 寄附講座の概要

(1) 寄附講座は、「持続可能な発展とリスクマネジメント～人間の安全保障(*)を中心に～」（前・後期）という名称で、早稲田大学オープン教育センターにおいて、2009年4月から1年間、計30回の講義を実施する予定です。

* 人間の安全保障：現在、地球環境問題、グローバルな経済格差拡大、テロリズム、新型インフルエンザなど、国境を越えて人間の生存・生活を脅かす新たな不安・脅威の高まりが重大な人類の課題となっています。こうした課題と考え方を包括的に「人間の安全保障」としています。

(2) 講師は、アジアにおける気候変動・自然災害、リスクファイナンス、感染症、紛争、貧困、エネルギーなどの各分野に取り組む関係各機関の専門家・研究者です。また、損保ジャパンと株式会社損保ジャパン・リスクマネジメントからも講師を派遣します。

2. 産学連携のねらい

(1) 本講座では、OASと損保ジャパングループの両者がそれぞれ有する強みやノウハウを生かして、専門的な知識と実践的なノウハウを有した、アジアの平和的成長と発展を担う人材を育成することを目的としています。

(2) 損保ジャパングループは、アジア地域での事業展開を主体とする企業グループとして、リスクマネジメントや気候変動に関する知見などを生かし、アジアの「持続可能な発展のための教育(ESD)」に取り組んでいます。

(3) 今後、早稲田大学と損保ジャパンは、本講座を受講した人材がアジアにおける「人間の安全保障」を考え、その成果がアジア各国へ情報発信されていくことを目指します。

以上

(ご参考) 連携イメージ

アジアの人材育成で産学連携
持続可能な発展とリスクマネジメント～人間の安全保障を中心に～

早稲田大学 アジア研究機構

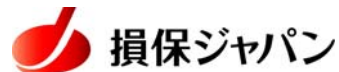
人間の安全保障を中心としたアジアの平和的成長と発展のために、アジアの人々と「知」のネット・ワークによる人材育成を目指す。

損保ジャパングループ

アジア地域での事業展開を主体とする企業グループとして、リスクマネジメントや気候変動に関する知見などを生かしアジアの「持続可能な発展のための教育(ESD)」を目指す。

アジア研究機構

[AHC(アジア・ヒューマン・コミュニティー)研究所※]



アジアの人材育成で産学連携
早稲田大学における損保ジャパン寄附講座
「持続可能な発展とリスクマネジメント～人間の安全保障を中心に～」
2009年4月から1年間

※[AHC(アジア・ヒューマン・コミュニティー)研究所]は、全早稲田大学のアジア研究者が連携しアジア研究の世界拠点を目指して設立された「アジア研究機構」の傘下で活動をするプロジェクト研究所の一つであり、今回の産学連携の運営の中心を担う。同研究所は、2007年度から2013年度までの間、アジア各国の行動的知識人を中心とした「知的ネット・ワーク」の構築を図るとともに、既に個別に存在するアジアネット・ワークを連結するような包括的ネット・ワークの構築を通じて、アジアが現在抱える幾つかの重大な問題をクラスターに分類して、共同研究プログラムを目指している。所長は、同大学大学院アジア太平洋研究科の天児慧教授。